

2026 年 6 月 16 日

学校法人三幸学園
横浜ビューティーアート専門学校
校長 石川 裕子 殿

学校関係者評価委員会
委員長 寺田 匡

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 寺田 匡（株式会社そごう・西武 そごう横浜店 フロアマネジメント部フロア運営担当）
- ② 箭内 柚香（株式会社ケンジ 採用コンシェルジュ 主任）
- ③ 平山 美沙（第 18 期卒業生）
- ④ 高橋 里奈（飛鳥未来きぼう高等学校 横浜みなとみらいキャンパス キャンパス長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 6 月 16 日（会場 横浜ビューティーアート専門学校 応接室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 横浜ビューティーアート専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 松川 喜代美

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 寺田 匡

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

「規律とリレーションの強化」

規律面においては、挨拶・返事・時間遵守等の基本行動について少しずつ定着が見られ、学校全体としての土台づくりは進んでおり、実際に退学者の減少にはつながっている。一方で、場面に応じた主体的な行動や、自ら考えた上での発信・行動については、学生間で差が見られる状況である。

リレーション面では、クラス内の関係性の質は向上しているが、対人コミュニケーションにおける「リアクション」や「相手視点」の行動については継続した指導が必要である。

→2026年度の教務目標は「やりきる教務」、部門目標は「Logic×Branding」としている

② 学校関係者評価委員会コメント

今年度が一番、横浜ビューティーアート専門学校からの採用応募が多い状況。新人教育に関しては様々な学生と触れ合う中で、新人研修の内容は難しいと感じている。研修では素直さや謙虚さを伝えるようにしている。顔きやオウム返し等も研修で実施するが、現場に行くと誰かがやるだろうとやらない部分もありなかなか定着しない。新人教育だけでなく、ウェルカム会議を行い、店長やオーナー向けに今の学生の状況などを伝え、現場側の研修も行っている。(箭内委員 美容科)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

教育理念に掲げる「自ら考え、自ら行動する人材育成」に対し、学生の主体性には個人差があり、十分に実践できていない場面が見受けられる。

② 今後の改善方策

主体性を育むため、課題解決型の授業や自らの考えを伝えるような機会を増やす。また、挑戦と失敗を許容する環境づくりを進め、成功体験を積み重ねられる教育を推進する。教職員の関わり方についても、指示型から伴走型（学生の考えや思いを引き出す）への転換を図る。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

今までは「教員は教える」「生徒は覚える」という教育から、自分自身の考えを伝え、どうやって答えを導き出すかのプロセスという視点に教育が変わってきている。通信制高校だと不登校経験者は他者の言葉で傷ついた経験もあり、誰かに発言することが課題な学生が多い。（高橋委員 全学科）

学生時代は、コンテスト等出る機会が多く、応援してくれる環境だった。自分自身は様々なことに挑戦できたがクラス全体がそうかと言われるとそうではなく、一部で差が出ているところはあった。自分が挑戦していたのは、高校時代の部活動の経験から何事にも挑戦したいという気持ちが強く専門学校でも自分から積極的に行動していた。（平山委員 美容科）

意識しているのは 100 人いれば 100 通りの考え方があり、人との距離感も、お金の価値観も、人間関係もすべてが人それぞれで感じ方は違うということを研修では話すようにしている。主体性は個人差がある。主体性は本人が気づくかどうか重要なため、自分で発言してもらうことを意識し、正しい情報を持って判断する情報が異なるため、正しい相手に相談をして解決してあげることが優先すると主体的に考えて行動する意識を作らせることができる。（寺田委員 トータルビューティー科）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

学校運営については、運営方針や意思決定体制、各種制度等が整備されており、概ね適正に機能している。一方で、情報システムの活用による業務効率化については、さらなる改善の余地があり、業務の属人化や作業負担の偏りが見られる場面がある。

② 今後の改善方策

業務の効率化を図るため、情報システムやツールの活用を一層推進し、業務フローの見直しと標準化を進める。また、教職員間での情報共有を強化し、属人化している業務の可視化と分散を図ることで、組織全体としての生産性向上につなげる。さらに、デジタル化の推進により、教育活動および事務業務の質向上と効率化を両立できる体制の構築を目指す。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

便利ではあるが情報が多すぎて使いこなせていない。今はトライアルで取り入れてはいるが、それを使いこなすことが難しいため、まずは生徒に伝える時間をしっかり確保することが大事だと思う。（寺田委員 トータルビューティー科）

AI の勉強会、共有する場は増えている。スタイル写真をアップする方法や画像の作り方などは得意な職員がやり方を共有して運用している。就職活動でも学生が自分に合うサロンを探しにくくなっているため AI で簡単に探せるように検討している。（箭内委員 美容科）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

キャリア教育や実践的教育については一定の取り組みはあるものの、学科や担当者による質のばらつきが見られる。

企業連携や外部講師の活用において、継続性や体系化に課題がある。教員の指導力および業界最新情報のアップデートに個人差がある。

② 今後の改善方策

企業連携を単発から継続型へと発展させ、インターンシップや授業連動の強化を図る。

教職員研修の充実および外部との接点（コンテスト・企業訪問等）の機会を増やし、指導力向上を図る。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

働いていて、特に大切だと思うことは SNS の継続である。在学中も教えてもらっていたがあまり当事者意識を持って考えられず、心のどこかで会社が集客してくれると思っていた部分がある。実際に働いてみると自分で集客することが大事だと感じている。どんな写真がいいか、どんな文章がいいかなど学生のうちに実施しておけばよかった。また、サロンによっても異なると思うが友達と話すことが多く、普段の学校生活では敬語をあまり使わなかったため、社会人になってもっと学んでおけばよかったと感じるようになっていた。(平山委員 美容科)

SNS 研修を実施している。職場では1、2年目職員の人気が高く、SNS で集客をしている人もいる。ただ、SNS を上げることが楽しいかどうかにも個人差があり、SNS に頼らず頑張っている職員もいる。(箭内委員 美容科)

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・卒業生の活躍状況やキャリア形成の把握が十分に体系化されていない。
- ・退学に関しては目標喪失による退学が増加傾向。特に目標喪失に至るまでの経緯に課題があるため、対応策が必要と感じられる。

② 今後の改善方策

卒業生ネットワークの構築および定期的な情報収集の仕組み化。

② 特記事項

特になし。

③ 学校関係者評価委員会コメント

高校からの進路指導では「やってみたい」を応援してあげたいと思っている。家庭の様子や声かけも時代とともに変わっており、「あなたはどうしたいの?」という言葉がけが多い。そのため、社会や現場の厳しさを教員が伝えつつも本人の「やりたい」を尊重している。家庭でも支援されて入学するとギャップがあり、悩んで学校に相談にくることがある。美容の専門学校の場合、自分がきれいになることと人をきれいにすることは異なりギャップを感じてしまう高校生もいる。(高橋委員 全学科)

本校が学生にとって社会に出る前の最終の教育機関となる。10 年ほど前の学生は学校で優等生が現場に行ってもダメになることがある。学校で認める、褒めすぎたものの、社会であまりそういった経験がなく心が折れてしまい退職につながることもある。2年間という短さで何かしら独り立ちできるように支援が必要であり、1 個ずつ階段を上らせる必要があると思う。教職員と伴奏するのではなく聞かれたことは支援する、聞かれないこ

とにはもう自分で聞く姿勢を作れる環境を作るようにして手を差し伸べるところとそうでないところをしっかりと見極めて教育していく必要があると思う。(松川さん)

学校で出来ていたことが社会人になって出来なくなったと思うことはある。しかしこれから先があると思うので前向きに頑張りたい。(平山委員 美容科)

職場では少し前は新人研修で目立つ子ほど早い退職につながることがあった。長く活躍してくれる職員、会社は人間力が高いと思う。上司の伝える気持ちが強くて、後輩もその姿を見ているため、褒めるところは褒めていくことを意識している。(箭内委員 美容科)

離職や定着率の面で意識しているのは心理的安全性である。手段ではなく、個人のスキルや人間性を作る中で安全かどうかですくすく育つと考えているため、安心して働ける環境を作ることを意識している。それもそれぞれの安全性があるため、個人に合わせて対応している。自分の失敗談を話すと身近に感じるため、その距離感で安全を作ることもしている。学校紹介でも悪いことはないから逆に怪しく感じてしまうこともあるのである程度悪い部分を見せることも大事だと思う。(寺田委員 トータルビューティー科)

(5) 学生支援

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・学生のメンタル面への対応や個別支援において、対応のばらつきがある。
- ・卒業生支援や中途退学者支援について、継続的な関わりが十分とは言えない。

② 今後の改善方策

- ・スクールカウンセラーの活用促進および教職員の対応力向上。
- ・卒業生・中途退学者へのフォロー体制を整理し、継続的な関係構築を図る。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

実際の職場で窓口は作っているものの使用する人は少ない。店長のたばこの回数が多い等、誰に言えばいいかわからない悩みから心の悩みなど幅広く相談はある。幹部が男性だと相談がしにくいと言われることもある。エリアで就職希望する学生がいると入社後にサロンが決まるため、気にかけて、介入して続けられるようにオーナーとも話すこともしている。(箭内委員 美容科)

職場にて後輩が4月に入職して育てている側になった。聞かれたことはしっかり答え、相談しやすい環境は作るように意識している。(平山委員 美容科)

相談をする環境を作っても、チームで対応しなければいけない時に他の職員にも状況を伝える必要があり、そこも相談者が何を求めているのか確認をし、気を付けながら対応する必要があると思う。知られたくない人にも知られているとなるとダメージも多いため気を付けて対応してほしいと思う。(寺田委員 全学科)

(6)教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

①課題

・施設・設備については教育活動に必要な環境は整備されているものの、学生数やクラス数の増加に伴い、教室や実習スペースの確保に課題が見られる。

・学内外の実習やインターンシップについては実施できているものの、機会の均一化や内容の充実、体系的な運用において改善の余地がある。

②今後の改善方策

・教室や実習室の効率的な活用を進め、時間割の工夫や(オンライン・ハイブリッド授業等)により教育環境の最適化を図る。

・インターンシップや外部実習については提携企業との連携を強化し、継続的かつ計画的に実施できる仕組みを構築することで、学生の実践力向上につなげる。

③特記事項

防災・安全管理については体制が整備されており、定期的な避難訓練や安全指導の実施など、学生・教職員の意識向上に取り組んでいる

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

高校では朝9時から時間割を組み、遅いコマまで授業を実施できる時間割にしている。廊下に机などを置いて作業できるよう工夫している。(高橋委員 全学科)

学生時の実習では、もっと近くでヒアリング内容を聞けたらよかった。1日の流れは将来のイメージをつなげることができたと思う。(平山委員 美容科)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題

学生募集活動、入学選考、学納金の設定については適正に運用されているが、少子化や進路選択の多様化に伴い、学校の特徴や教育成果をより効果的に伝える必要がある。また、オープンキャンパスや広報活動において、教職員および在校生スタッフの対応力に差が見られる場面がある。

②今後の改善方策

学校の教育内容や就職実績、在校生の成長事例などをより具体的に可視化し、広報活動を強化する。

③特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

職場ではダントツで卒業生が多い。横浜ビューティーアート学生のよさは、明るく元気な学生が多い印象。美容室として元気な挨拶ができ、コツコツ仕事を覚えて活躍してくれている。また、自分から話しかけてくれる、コミュニケーション能力の高さが魅力だと思う。(箭内委員 美容科)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

法令遵守および個人情報保護についてはおおむね適正に運用されているが、自己評価の実施結果を組織的に分析し、改善に結びつける仕組みについては更なる強化が必要である。

② 今後の改善方策

自己評価結果を教職員間で共有し、課題に対する具体的な改善計画の策定および進捗管理を行う体制を強化する。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・地域イベントやボランティア活動への参加は継続的に実施できており、地域との関わりは一定の成果が見られる。一方で学校としての取り組みが単発にとどまるケースもあり、継続的かつ発展的な地域連携としての仕組み化が課題である。また美容業界の実践的な経験機会として撮影現場やアーティストの舞台裏、MV撮影同行などの現場実習については、首都圏の学校や競合校と比較すると機会が限定的であり、より実践的かつ高度な現場経験の提供に課題がある。さらに公開講座や地域向け教育活動についても、更なる充実と発信力の強化が求められる。

② 今後の改善方策

地域連携については、既存のイベントやボランティア活動を単発で終わらせるのではなく、地域企業や自治体との連携を強化し、年間を通じた継続的な取り組みとして体系化していく。また、美容業界との連携をより一層強化し、撮影現場や舞台・イベントのバックステージ、MV撮影などへの参加機会を拡充するため、企業・プロダクションとの関係構築を積極的に行う。加えて、外部講師の招聘や現場連動型授業の導入を進め、実践的な職業教育の質向上を図る。さらに、学生の興味関心や将来の進路に応じて多様な現場経験を提供できる仕組みを整備し、地域貢献と業界接続の両立を図る教育環境の充実を目指す。公開講座や地域向けプログラムについても、学校の専門性を活かした内容へと発展させ、地域への価値提供と学校の魅力発信の双方を強化していく。

③ 特記事項

特になし。

④ 学校関係者評価委員会コメント

昨年度のサロンワーク(サロン現場での接客・施術実習)に参加していただいてよかった。朝礼の声の大きさが働いているスタッフの意識も変わった。またやってほしいと感じ、頻度も高めたいと思った。明るく元気な生徒が多いという印象。社会に事前に出ることで知っておいてほしいこととして活用し、色んな場所で経験してほしいと思う。バックヤードも百貨店によっても様々なため、今後は社風や立地にもよるがそういった様々なところも見してほしい。(寺田委員 トータルビューティー科)

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の受入れについては、これまで在籍数が少なく、本格的な国際交流の展開には至っていなかったが、今年度は入学者の増加が見られ、今後の受入体制の強化が求められる状況となっている。現状においては、留学生の受入れ・在籍管理に関する基本的な手続きは適切に行われているものの、学内全体としての支援体制や教育面での対応については、更なる整備が必要である。

② 今後の改善方策

増加する留学生に対応するため、学内における受入体制や支援体制を整備し、日本語学習支援や生活指導、進路支援などを体系的に行う仕組みを構築する。

③ 特記事項

特になし。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

百貨店は免税の売り上げは3%程度で思っているより横浜は少ない。中国のお客様は減っているものの台湾など増えている傾向である。クレームなどは外国の方も多く、都内や大阪地区はもっと多いので対応方法なども学んでいく必要があると思う。フロアごとにテーマがあり、外国の方向けの研修なども取り入れている。(寺田委員 トータルビューティー科)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校全体として教育理念に基づいた運営は概ね適切に行われており、特に就職支援や規律指導において成果が見られる。一方で、主体性の育成やキャリア教育の体系化、外部連携の強化などに課題が残る。今後は、社会ニーズに対応した実践的教育の質の向上と、学生一人ひとりの成長を支える指導体制の強化を図り、より高い教育成果につなげていく。